

あいらの歴史と物語

発行責任者：始良歴史ボランティア協会
会長 橋木 雅晴
編集者：広報部長 竹之下 洲一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

始良市歴史民俗資料館 Tel 0995(65)1553

ガイド練習報告

加治木町史跡めぐり③



蔵 王 岳

ランドマーク蔵王岳

西 田 實

加治木八景の一つに数えられる蔵王岳は、一目で忘れられないランドマークであります。

山の形や姿が奇峰であるばかりでなく。蔵王という文字・響きと「なぜ、ざおうというのだろうか」と尋ねたくもなる山であります。

『三国名勝図会』によると、昔奈良県吉野の金峰山寺の本尊・蔵王権現を勧請した「蔵王権現社」が蔵王岳の下にあったといひます。

また、加治木は和州・紀州の仏神を勧請し、修験の徒が、諸国に行場を置き、和州大峰・紀州熊野参詣に擬し、遍歴したといひます。

加治木の「蔵王権現」は和州吉野の蔵王を擬し、加治木中野の「金の岳」は大峰を、加治木城鎮守「山元権現」は熊野新宮を、安国寺鎮守「岩本権現」は熊野本宮を、「黒川権現」は熊野那智をそれぞれ擬し、「黒川観音」を那智観音として、修験者が参詣・修行したといひます。

修験道独特の本尊・蔵王権現を感得した役行者（役小角）が活躍したのは8世紀ですから、それ以降のころのことと思われまふ。

りゅうもんたき
龍 門 滝

濱 口 純 則

網掛川の上流高井田にあり、小山田川が旧加治木本城を巡ってこの滝に注いでいます。滝の地形は、このあたりが海であった約70万年前に、海底に堆積した地層の中にマグマが上昇・貫入し、内部で冷え固まって地表に露出してきたものだそうです。玄武岩の柱状節理・板状節理が美しく、近くの蔵王岳・湯湾岳・始良の片子山・剣の岡（剣の平）の岩山も、そのころ同様にできたものと考えられています。

高さ46m、幅43mの龍門滝は「日本の滝100選」に選ばれています。昔唐人がこれを賞して“漢土の龍門の滝を見るがごとし”と言ったので、この名前がついたということです。

また、龍門滝正面100mばかりの所に小高い丘の滝見台があって、加治木島津家6代久徴（錦水公）が建てた石座像の滝観音があります。

さらに、この滝と上流の金山橋との間には「川蟬の滝」落差1.8m、幅15m・「螢の滝」落差1.5m、幅16mの美しい滝があります。

金山橋

坂元清美

金山橋は、明治12年(1879)ごろ島津家が、産業道路として加治木港(通称舌出し)を起点に、山ヶ野金山まで通じる道を開いたとき、小山田井出向に架けられた橋です。

明治10年(1877)ごろから、島津家は山ヶ野金山の近代化を推進します。動力源に蒸気力を用いるようになると、大量の石炭や生活物資を輸送するため、馬車でも通れるような広い道路や頑丈な石橋の建設が必要となったのです。

金山橋の構造は、長さ約23m、幅約4.2m、川床からの高さ約12mの美しいアーチ型で、高い技術のもと作られた石造りの橋です。

橋の横には水神碑があり、旧金山橋の名称と欄干が残されていますが、築造に関する資料などを目にすることはできません。



金山橋からのぞむ板井手の滝

上流の「板井手の滝」と金山橋の組み合わせの景観は見事で、力強い石橋の円弧を目の前で見ることができます。

日木山の「日枝神社」

藤崎幸雄

大字日木山の里自治会にあり、俗に山王様(オサドーサー)と呼ばれていますが、明治になってから日枝神社と称されるようになりました。総本社は滋賀県大津坂本にある日吉大社です。分祀社3800といわれ、日木山の日枝神社もその中の一つで、戦前の社格は村社でした。

日吉大社も太平洋戦争以前は日吉神社、また、一般的には日吉山王社・山王権現と呼ばれていました。山王と称される由来は、最澄入唐の際、彼地の天台山国清寺に山王祠があったことにちなんで、比叡(日枝)の山の神を山王と称したことによります。山王とは日吉神社の別称であり、主祭神の大山咋神は古事記にも「日



日枝神社

枝山に坐す」と記され地主神だったのです。

外来の仏教が民衆の世界に生きようとするときに、日本の在地の民間信仰である山岳信仰などと結びつき、融合・調和していきました。日吉神社と延暦寺は神仏相並んで結託し、共に栄えたのです。

その後、延暦寺は信長に抵抗したため焼打ちにあい、根本中堂山王21社をはじめ、社寺・堂塔五百余棟灰燼と帰しましたが、秀吉により再興されました。

なお、日木山の山王様は天台宗東禅寺鎮守で、本地仏は薬師如来と伝えられています。

山元碗右衛門の夢は今に！

松元淳一

龍門司焼は、朝鮮の役で出兵した島津義弘が朝鮮の陶工80余人を連れ帰り、焼き物を作らせたことから始まります。義弘は慶長12年(1607)に加治木の館に入ります。このころ金海は御里に、下芳仲は龍口に開窯しています。

芳仲は跡目として小右衛門を田ノ浦から呼び寄せます。加治木にとどまった陶工たちは、義弘や加治木島津家の手厚い保護を受けて作陶に励みます。



龍門司焼古窯跡

寛文7年(1667)小右衛門は、安国寺西方に山元窯を開き山元碗右衛門と名のります。碗右衛門は、田ノ浦で鶴丸城の陶器瓦作りに携わっていますが、吉原窯や山元窯に来てからは、芳仲の後継者として多種の焼き物を作ったようです。肥前式陶技を習得し、高級な皿・碗・陶器の製作に情熱を傾けます。碗右衛門は、元禄元年(1688)小山田の高崎松尾坂に白石を発見し、ここに移ります。享保3年(1718)茶碗屋に龍門司焼古窯を築きます。ろくろや窯たき技術を駆使し、土や釉薬の性質を知り尽くし、伝統技の礎を築き、龍門司焼の陶祖と呼ばれています。享保10年(1725)、93歳で死去します。

碗右衛門の夢は、山元家4代から川原家・龍門司焼企業組合の作陶家たちに、連綿と継承・発展されています。

くわしほこ 精矛神社

中野 則子

日木山の麓にある精矛神社は、戦国時代有数の武将島津義弘を祀った神社です。

義弘は、朝鮮出兵の軍功により加治木を領有することとなり、慶長12年(1607)、加治木(現在の加治木高校、柁城小学校一带)に屋形を造り、平松城から移り住みました。

元和5年(1619)7月21日、義弘は85歳で逝去し、島津家代々の菩提寺である鹿児島島の福昌寺に埋葬されました。

義弘が生前京都の仏師に命じて造らせたご影像が、加治木の本誓寺と伊集院の妙円寺に安置されました。



精矛神社

明治2年になり、加治木屋形跡に新しく社殿

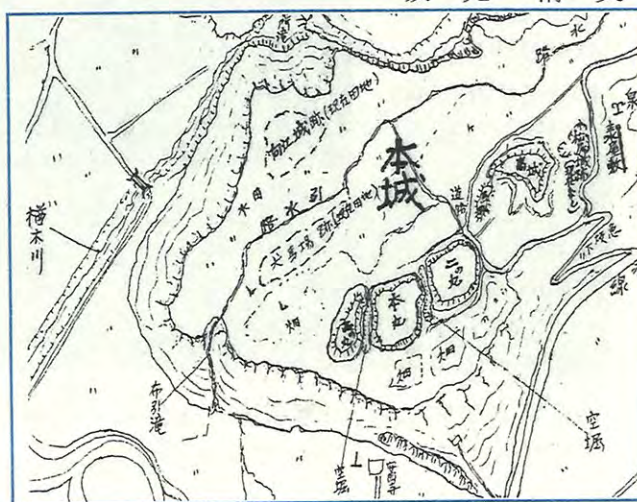
を造営しました。「精矛巖健雄命」(くわしほこいつたけおのみこと)という義弘の神号から「精矛神社」と名付けられました。

さらに大正7年(1918)、義弘没後300年に当たり、現在地に造営遷座されました。ここはもと扇和園という島津家の別荘があった所です。

境内には、文禄の役のときに、船のおもしとして持ち帰った手洗鉢と石臼があります。また、吉祥寺開山松岳和尚が、義弘の武運長久と子孫繁栄を願って読誦した、法華経1万3千部読経記念の石碑があります。

加治木城跡

坂元 清美



加治木城跡 (鹿児島県『中世城館跡調査書』による)

築城の年代は不明ですが、地元の豪族であった大蔵氏によって、築かれたと伝えられています。平安時代寛弘3年(1006)、当主大蔵良長のとき、後継ぎの男子がなく、流罪となっていた関白藤原頼忠の三男経平に、娘をめとらせて大蔵家を継がせたと伝えられています。経平は、加治木氏を名のようになりました。以後、有力国人としてこの地を治めていました。

戦国時代になると戦いに明け暮れ、城主も加治木氏から伊地知氏(1496年～1527年)、肝付氏(1527年～1595年)と代わり、文禄太閤検地のあと、加治木は豊臣秀吉の直轄領(1595年～1598年)となりました。

義弘による朝鮮の「泗川の戦い」の軍功により、領地は島津氏に返され、加治木は義弘の領地の一部になりましたが、以後、加治木城に城主が入ることはありませんでした。

庄内の乱での伊集院方軍師永仙の供養塔

恒見 勝 則

慶長5年(1600)2月下旬、徳川家康の講和策によって、島津側と都城伊集院忠真方との庄内の乱は終結しました。このとき忠真方の軍師として、紀州根来の僧、白石永仙がいました。

永仙は庄内の乱後逃れて、帖佐住吉を馬に乗り通っているのを、蒲生上島の蔵元某という侍に弓で射られました。負傷した永仙は、下久徳の早馬で捕えられ、この地で首だけ出して生き埋めにされ、竹鋸で首をとられ、首は重富白銀坂の登り口にさらされたといひます。



白石永仙の供養塔

下久徳の村人は永仙のたたりを恐れ、早馬に供養塔を建てました。

自然石の碑には、「奉寄進 永仙志 正徳元年卯九月十六日」と刻してあります。

10月23日 9:00~14:00	薩摩 ISHIN 祭実行委員会 代表：吉留大輔様
案内者	藤崎幸雄・吉田茂子 橋木雅晴・竹之内和仁
コース	岩剣城→帖佐館と稲荷神社 →加治木館→精矛神社
11月11日 9:00~12:00	医療生協始良支部 御一行10名様
案内者	橋木雅晴・竹之内和仁・ 吉田茂子
コース	平松城跡周辺→岩剣神社 →越前島津家墓地など
2月21日~22日 12:30~15:00	鹿児島大学教育学部社会科 歴史学教室御一行6名様
案内者	尾口館長・橋木雅晴・ 竹之下洲一
コース	脇元→白銀坂→岩剣城 →建昌城 願成寺→鋼山跡→納屋町 →義弘館跡→宇都窯跡など

歴史用語解説

(西田實・竹之下洲一)

『修験道』 密教・神道・陰陽道などの影響を受け、日本で成立した呪術的な山岳信仰。呪術者役小角を祖師と仰ぐ。もともと山中の修行による、呪力の獲得を目的としたが後世の教義では、自然との一体化による即身成仏を重視する。中世特に盛んとなり、修行者は山伏と呼ばれた。彼らは大和の大峰山、加賀・飛騨にまたがる白山、紀伊の熊野山、出羽の出羽三山、豊前の英彦山などで修行した。

『日吉神社』 比叡山の地主神。大山咋神が主神で末社も多く日吉山王21社と呼ぶ。山法師と呼ばれた比叡山の僧兵は、当社の神輿をかついで強訴した。

始郷 (あいきょう)

面白い地名あります

本多 幸子

始良市三拾町近辺には、土地の人しか使っていない不思議な地名があります。若宮神社脇の坂道を「あんだ坂」、坂の入口を「おぶつのせと」、登り着いた所を「あんだ丘」と土地の古老は呼んでいます。どのような歴史が開けていたのか、今は知る由もありませんが、何かロマンを感じます。

伝 池月の墓

松下 澄行

重富地区公民館の玄関右横にある花壇の中に、池月の墓と言われている馬の石碑が建っています。池月は指宿から献上された源頼朝の愛馬で、宇治川の先陣争いでも活躍した名馬です。

その後老いた池月を、故郷の指宿で余生を送らせようと、鎌倉から連れ帰る途中力尽きて重富の地で亡くなりました。哀れに思った人々が丁重に葬り建てた墓が、この石碑だと言ひ伝えられています。重富にも名馬池月の伝説があるのですね。

編集後記

昨年度は、主に加治木町内の史跡の研修に努めてまいりました。広報誌第11号から13号にかけて、その成果を報告してまいりました。

本年度は特に、蒲生町の史跡が案内できるように、研修を積み重ねていこうと会員一同話し合っています。

今後とも皆様のご支援をお願いします。